

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0193500121), 法人名 (医療法人社団 上田病院), 事業所名 (グループホーム たんとん(空ユニット)), 所在地 (室蘭市日の出町2丁目2番26号), 自己評価作成日 (令和2年10月8日), 評価結果市町村受理日 (令和2年12月8日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0193500121-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年10月27日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりのペースに合わせ出来る事はやっております。「その人らしい暮らし」生活が出来る様、本人の気持ちや状況を常に考えながら日々の生活に取り組んでいます。今年度は、コロナウイルス感染予防のため、季節ごとの行事が中止になっていますが、ユニット内で出来るレクリエーションを企画し、入居者さんに楽しんで貰えるよう行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体である上田病院は1982年に開業し、長く地域医療に貢献していく中で、地元ニーズに応え認知症ケアを目指し、現在では3事業所のグループホームを展開し、地域の方々にお世話になって信用を得ている。当事業所は最寄りの駅やバス停から近い閑静な住宅街に立地し、敷地内には系列の事業所が隣接しており、非常時や季節行事での連携、協力体制が築かれている。9年目を迎える当事業所の優れている点として、母体医療法人を協力病院とし、院長、グループホーム担当医の定期往診と看護師職員が毎日訪問する事で利用者を24時間連携体制で見守り、健康と緊急時及び重度化、終末期までの手厚い医療が提供されている事である。更に、3事業所の夜間緊急時対応として、常に2名の職員を自宅待機させるなど万全な態勢を整え、利用者も職員も不安の無い介護支援に努めている。災害時対策についても、津波や日中・夜間想定火災避難訓練に加えて、毎月シミュレーション週間を設け、様々な災害を想定した模擬訓練を実施する等、防災意識を高めている。外部や家族との交流が厳しいコロナ禍にあっても、その人らしい暮らしを継続させたいと、介護度に格差のある利用者に合わせて、体操、ボール投げ、玉入れ、トランプ、カルタ、おやつ作りなど、職員はアイデアを出し合いレクの応用を工夫して、気分転換やストレス発散に繋げ笑顔を引き出している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は他のグループホームとも共有し玄関の入り口に掲示している。理念に素づきユニットで話し合い年間のユニット目標を立て実践している。	3事業所共通の運営理念とケア理念は、目に付き易い玄関への掲示、職員は名札裏に携帯し理念を確実に浸透させる事に努めている。更にユニット毎に目標を掲げ、具体的なケアについて意識統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、お祭りや、公園の清掃などの参加している。年6回の運営推進会議、避難訓練などにも協力して頂いている。	例年は町内会とも積極的に交流し、子供神輿の立ち寄りやゴミ清掃活動等に参加している。傾聴ボランティアの定期訪問や、運営推進会議、事業所の避難訓練には住民の参加協力を得ているが、現在はコロナ禍で自粛が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でヒヤリハットの事例の報告など通し認知症に対する理解を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開き、包括支援センター・市役所・町内会役員・民生委員の方々に参加して頂き、活動報告、市や、町内会の情報交換をしている。家族の参加は少ない。	隣接の事業所と合同で2ヵ月毎に会議を開催し、意見交換の場として活かされていたが、コロナ禍で3月から書面会議となり、事業所の運営及び利用者の状況、ヒヤリハットや事故報告等を記載した議事録を運営推進会議のメンバーに配布し、全家族にはお便りで報告している。	前回の外部評価で家族参加への取り組みを目標達成計画に掲げているので、その継続に期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でヒヤリハットの事例の報告など通し認知症に対する理解を求めている。	地域包括支援センターが中心で行っている認知症徘徊捜索模擬訓練に参加し、認知症を支える地域づくり活動に協力している。運営推進会議を通じて事業所の現況を伝え、課題が発生した場合は指導を仰いでいる。認定更新時には情報を提供し連携が図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議でヒヤリハットの事例の報告など通し認知症に対する理解を求めている。	指針を基に身体拘束等適正化委員会を運営推進会議内に設置し2ヵ月毎に開催している。事故報告と共に家族の同意を得た拘束事例も報告し、生命保護等の止むを得ないケースへの理解と透明性を図り、モニタリング評価を記録している。職員は新人研修や内・外部研修で、身体拘束の弊害について理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置している。また、職員同士で注意を払い、虐待のないケアを実践するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	成年後見人制度を利用している方がいるので、制度の理解はしている。後見人の方と話す機会もありスタッフとも情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書を読み上げ理解頂いている。改定などの時も十分に説明し、納得している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	信頼関係を築けるように、面会時等には日常の報告や体調の変化等伝えている。家族からの心配事や気になる事も聞き、その都度職員に周知している。	毎月発行の「たんとん通信」と月次報告書に加えて、利用者個々の写真と手紙を送り、コロナ禍で面会が出来ない家族への安心に繋げている。現在、リモート面会を検討しているが、家族からの問い合わせや質問には丁寧に応え、要望を汲み取っている。利用者にも「したい事があるか」と望みを引き出し、美容室に出かけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を開き、職員の意見を聞き話し合っている。	ユニット会議やリーダー会議では運営やケアに関して職員から意見や提案が出されている。欠席者にも事前に業務についての意見書を提出してもらい、運営に反映させている。年1度、施設長との個人面談を設けて、目標達成と働く意欲向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員は自己評価を行い、施設長と個人面談を受けている。個々の環境に応じて勤務体制についても対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め	年に一度は外部の研修を受けるように促し、事業所内での研修も必要に応じて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭市のグループホーム連絡会に参加し、研修、会議などで情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、事前に担当ケアマネ、家族から情報を収集し、ご本人とも面談を行い要望を聞いている。入居後は本人の様子を観察し家族に報告、相談しながら生活して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族から要望を聞き、不安の無いように努めている。入居2週間毎にアセスメント、ケアプランの作成を行い、落ち着いて生活できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後2週間毎にアセスメントなど見直しを行い、家族と話し合い、要望があれば他のサービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の思いをくみ取り、職員同士が情報共有しながら、その人らしい生活ができるように支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にコミュニケーションを取りながら、信頼関係を築けるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、本人とご家族がゆっくり談話出来る環境を作っている。ご家族以外にも、友人などの面会もある。外出・外泊も自由に行っている。	コロナ禍で外出も面会も厳しい状況であるが、窓越しに顔を見せたり、受診時に遠回りして自宅付近を経由したり、家族の協力で馴染みの美容室に出かけている。携帯電話保持者は自由に連絡を取っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、グループに分かれている。介助を必要とするグループ、見守り程度のグループと一緒にテレビを観たり、会話を楽しんだり、レクなどにも参加してくれる。お互いに声を掛け合って助け合っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居は病院への入院がほとんどなので家族への連絡、入院先の病院への情報の提供など行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、家族、本人に介護に対する要望を聞き、意向に沿うようにしている。	7割以上の利用者が会話が出来るので、日常の言動や行動に注意し、困難な利用者には表情や仕草から可能な限り意向の把握に努め、申し送り時や連絡ノートで情報を共有し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報などでアセスメントを行っている。センター方式の記入を依頼したり、本人の関わりの中から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後、生活に慣れるまで本人をよく観察し、状況を把握している。生活に慣れてきたら、その人の生活を重視して対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で入居者それぞれの課題や、適切なケアについて話し合っている。プラン更新時は本人や、家族からの希望を確認している。	利用者個々の担当職員の気付きや2か月毎のモニタリング評価を基に、全職員で話し合い、介護支援専門員が纏めている。利用者、家族、医療関係者等の要望、意向を汲み取り、6か月毎に見直され、緊急時には即検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と、介護計画をファイリングし、介護計画に沿ったケアを行い、介護記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて対応している。家族からの希望・要望にも都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	室蘭市で行っている介護ボランティアなどを利用し、必要に応じて対応して行きたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	上田病院がかかりつけ医になっているが、本人・家族の希望で他病院を受診している。	本人、家族の希望に応じているが、殆どは運営母体の上田病院をかかりつけ医としており、院長とグループホーム担当医の往診を受けている。専門医等の受診は職員が対応し、情報は家族と共有している。看護師職員が毎日訪問し、健康管理と医師への連携が図られている。	

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月一度の往診や、その他、毎日の生活で異常等、見られた時は、訪問看護師へ連絡、医師へ報告、受診、服薬、などの指示を貰い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護添書を作成し入院先に提出している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居後に、終末期に関する覚書を作成し、家族の意向を確認している。主治医と連携しながら、家族の要望にも添える様対応している。	重度化や終末期に関する指針を説明し、家族の意向も確認し同意を得ている。状態変化に応じて今後の方向性を話し合い、病院転院の要望も多く、事業所での看取りを望む場合は終末期に関する覚書を作成し、家族と関係者間で方針を共有し看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはきちんと対応できるようにマニュアルを作成し、シミュレーションなどもおこなっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、全職員が参加できるように調整している。町内会、入居者にも参加して頂いている。災害時に必要な物品は1か所にまとめて覚えやすいようにしている。	昨年は消防署指導と地域住民参加の下に、今年は自主訓練で日中・夜間想定火災避難訓練を年2回、津波想定垂直移動訓練も定期的実施している。更に毎月シミュレーション週間を設けて、様々な災害を想定し模擬訓練を行っている。備蓄品の確保や系列事業所との協力体制も整備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを重視し、自尊心を傷つけないようにその人にあった声のかけかたをしている。	管理者は2ヵ月毎に新人研修を行い、サービスの基本を指導している。言葉の内容や語調等は日常的な確認と改善に向け管理者が都度注意を促している。同性介助にも対応し、人格の尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には、きちんと話をして対応している。自己決定出来ない方には、家族と話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の思いを尊重し、介助の方でも洗面所で身だしなみを整え、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを聞きながらその人にあった食事をていきょうしている。食事後の後片付けを手伝ってくれる方もいるのでお願いしている。	毎日の献立は系列の2事業所と協力し輪番で作成している。手作り料理を基本とし、利用者の嗜好も取り入れ、行事食、特に誕生日には本人の要望やケーキも用意し祝っている。畑で収穫した野菜も食卓を飾り、職員と共に味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった食事量を提供している。水分量も毎日把握し、記録に記入、季節に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、自分で出来る人は見守り、介助を必要とする人には介助している。義歯は毎晩、洗浄剤を使用し消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導、見守り、同行、して汚染の確認をしている。個々に合せた対応をしている。清潔に過ごせるよう支援している。	トイレ排泄を基本とし、排泄間隔を把握し、声掛け、誘導、必要に応じて二人介助で対応している。5割が下着使用者だが、夜間のみオムツ使用やポータブルトイレ、尿瓶、ベット上でのオムツ交換など、個々の身体や排泄状況に応じ工夫して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の確認を行い、下剤の調整、座薬の使用により、スムーズに排便できるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴してもらっている。入浴時も本人の好むお湯加減にし、リラックスできるよう心がけている。	入浴は利用者の希望に合わせた時間帯や同性介助、二人介助等を取り入れ、週2回は入れる様に支援している。湯加減なども個々の好みや習慣に出来るだけ合わせ、職員との1対1の空間では話や歌を楽しみ、ゆったりとリラックス出来る関わりを心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介助する方は、時間毎に自室に誘導、臥床してもらっている。元気な方は、自分で自室に戻りテレビやラジオを聴きながら横になったりしている。安心して入眠出来る環境を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は指示のもと、個別に管理している。薬の取り扱いには十分注意し、服薬時には日付、名前の読み上げ、誤薬しないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に合った楽しみをやってもらっている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には、職員と共に外に出かけている。	去年は、桜見物、葡萄狩り、水族館見学、道の駅など、季節や天候に合わせて出かけているが、今年は、コロナ禍で遠出の外出は自粛している。近隣公園への桜見物や散歩がせいぜいで、敷地内のベンチでの日向ぼっこや花壇に咲く花を愛でたり、畑の野菜の成長と収穫を楽しみ、ストレス発散、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんど、家族管理で必要なものは職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を設置し、希望時には電話が出来るようにしています。あまり利用する方はいません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット会議で環境の事を話し合いリビングの光などについて意見が出たり、心地よく過ごして貰うように配慮している。	各ユニットはキッチンを中心に回廊式になっており、リビングには食卓テーブルとソファークーナーが配置され、加湿空気清浄器も用意されている。共有空間には季節のハロウィンやスナップ写真、利用者のぬり絵などが飾られ温かな雰囲気を醸し出している。職員はリビングで皆と一緒にテレビ体操を生活の中に取り入れ、利用者の活動意欲の継続に繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを利用して仲の良い入居者同士座ったり、テレビを観たりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族と相談し、本人の馴染んだ物を持って来てもらうようにしている。	居室には、ベット、チェスト、収納棚、ポールが設置され、収納機能が行き届いている。事業所は出来るだけ馴染みの物持参を要望している。筆筒、ソファ、テレビ、仏壇など生活必需品が持ち込まれ、家族写真、趣味の版画絵、自作のぬり絵などを飾り、自分らしい居室を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の出来る事を職員と一緒にやっている。転倒などが無いように見守りを行い安全に生活できるように支援している。		